

学部プロジェクト研究

## 現代型環境変化と地域における生活文化の変容に関する研究 その5 年中行事について

The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation  
in Northern Tohoku Region, Japan  
Part 5. Annual Events in a Home

千葉俊之<sup>\*1</sup>、大里怜子<sup>\*1</sup>、川崎雅志<sup>\*1</sup>、本間義規<sup>\*2</sup>、佐々木隆<sup>\*2</sup>、原英子<sup>\*3</sup>

Toshiyuki CHIBA, Reiko OSATO, Masashi KAWASAKI  
Yoshinori HONMA, Takashi SASAKI and Eiko Hara KUSABA

Life styles were surveyed by a questionnaire in four regions (Nishine, Shibutami, Kuji, and Kawai) in Iwate Prefecture. In this report annual events in a home were summarized. First water drawn on New Year's morning and the Birthday of the Buddha were unfamiliar, whereas New Year, the equinoctial week, Bon Festival, and the New Year's Eve were popular. In the transition of the event, the ratio at home assumed not to have executed Hinamatsuri, the Children's Day, and Christmas was high.

**Keywords:** *Environmental Change, Questionnaire, Annual Events*  
環境変容、アンケート調査、年中行事

### 1. はじめに

前報に引き続き、岩手県内4地区（西根、川井、渋民、久慈）で、昭和30年代に盛岡短期大学生生活科学研究部が実施した生活全般に亘る生活調査報告<sup>1,4)</sup>を基に、現代型環境変化と地域における生活文化の変容を調べるためのアンケート（「生活に関するアンケート調査」）調査を実施したので、その結果について報告する。

調査対象とした4地区は、八幡平市田頭地区（西根）：田畑地帯、盛岡市玉山区下田地区（渋民）：住宅地帯、宮古市小国地区（川井）：山間地帯、久慈市宇部地区（久慈）：海浜地帯と、それぞれに県内の特徴的な地域である。図1に各地区の位置を示す。

本報告では、アンケート項目中の年中行事について、

各地区での実施状況や、その推移についてまとめた。

### 2. 調査の方法

前報と同様に、調査は2008年と2009年にアンケート調査法により実施した。調査地域は、昭和30年代の調査と同じ県内の4地区（西根、渋民、川井、久慈）であった。

調査対象に選択した年中行事は、生活調査報告書<sup>1,4)</sup>から抽出したものと、現在一般的に広く実施されているものを合わせ考え14項目とした。今回調査対象とした4地区に対して同じ調査用紙を用いることから、地域に特有な行事は除いた。行事实施の変遷も明らかとするため、現在実施していない行事については、回答の選択肢として「数年前に止めた」、「十年以上前に止めた」、「習慣なし」を設けた。行事は、各家庭あるいは地域によって、その取り組み方が異なることが推測される。調査では、アンケート用紙中に行事に関する補足説明等は行わず、回答者が行事名から連想する行事について回答して貰った。無回答は除き、回答があった項目だけを集計対象とした。

アンケート調査に当たっては、アンケートの提出は任意であること、回答は研究の目的のみに使用すること、個人が特定されることはないこと、プライバシーの保護を約束することを、文書で説明した上で、アンケートの協力を依頼した。

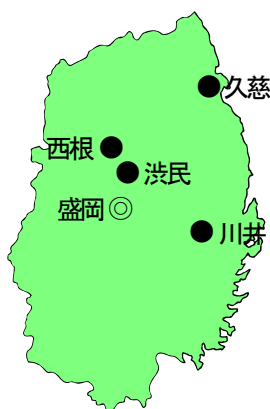


図1 調査対象地区の位置について

\*1 生活科学科食物栄養学専攻、\*2 生活科学科生活科学専攻、\*3 国際文化学科

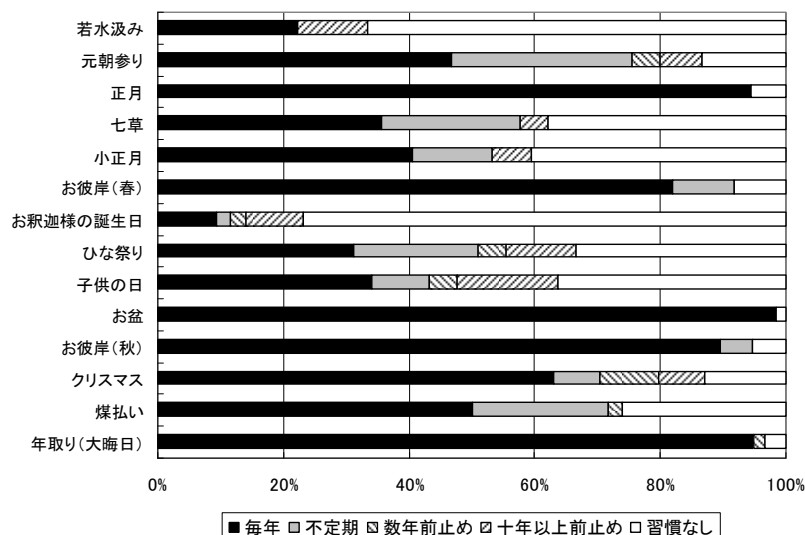


図2 西根地区の年中行事について

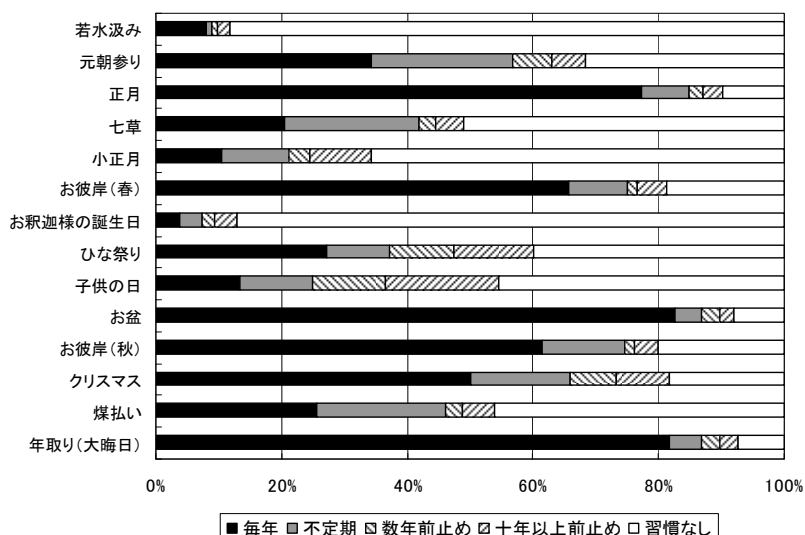


図3 渋民地区の年中行事について

### 3. 結果と考察

#### 3.1 まとめ方について

既報の生活調査報告書<sup>14)</sup>では、時系列的に各地区の年中行事内容の詳細を紹介する形式を取っていた。また、一部地区では行事参加状況にも触れていた。今回は、行事实施の変化を明らかにすることが目的であったため、行事内容の聞き取り調査等は行わず、各家庭での行事实施の有無などを尋ねたアンケート調査に基づく結果を集計し分析した。ここでは、今回の調査で明らかとなった各地区での行事实施の状況と推移をまとめた。

調査用紙の回収率は、西根地区：66% (73/110)、渋民地区：54% (231/426)、川井地区：45% (103/227)、久慈地区：83% (156/188)であった。

#### 3.2 西根地区

西根地区の調査結果を図2にまとめた。

「正月」、「お彼岸(春)」、「お盆」、「お彼岸(秋)」、「年取り(大晦日)」は、8割を超える家庭で毎年行われていた。一方、「お釈迦様の誕生日」は、1割以下の家庭でしか毎年行われておらず、この行事にもともと「習慣のない」家庭が8割近くを占めていた。「毎年」あるいは「不定期」に実施の両回答を合わせた割合が50%に満たない行事は、先の「お釈迦様の誕生日」に加えて「若水汲み」と「子供の日」であった。

年中行事の推移を尋ねた「数年前に止めた」あるいは「十年以上前に止めた」とする行事では、「若水汲み」、「ひな祭り」、「子供の日」を「十年以上前に止めた」とする家庭の割合が、それぞれ11%、11%、16%で、10%を上回っていた。また、「数年前に止めた」とする

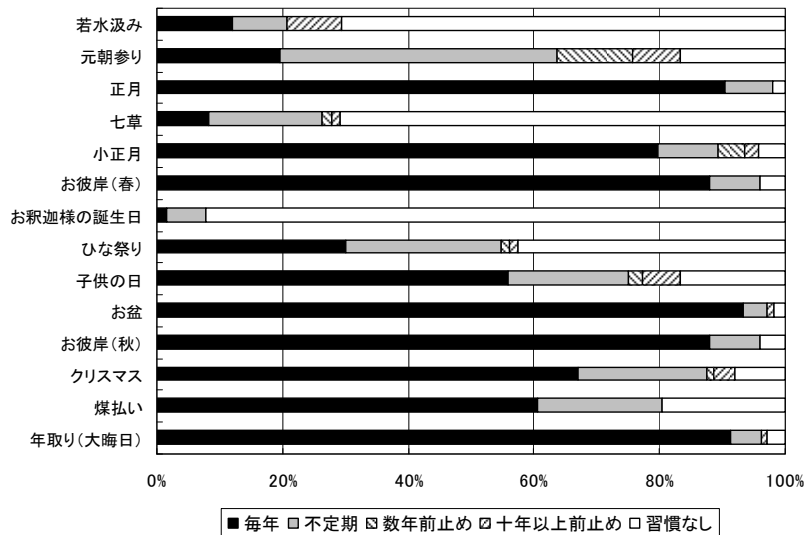


図4 久慈地区の年中行事について

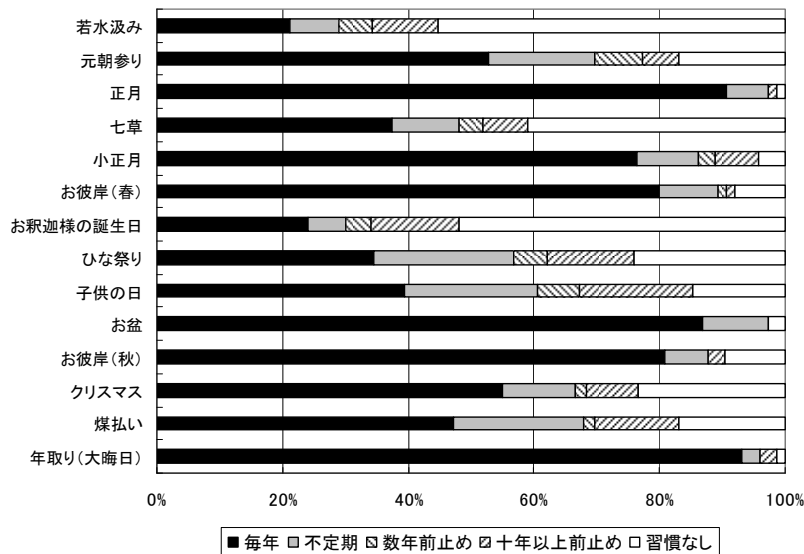


図5 川井地区の年中行事について

回答も合わせて考えると、「ひな祭り」、「子供の日」、「クリスマス」は、16～21%の家庭で過去には実施していたが現在は実施していない行事であった。これらの行事は、すべて子供が中心となる行事である。つまり、これらの家庭では、以前まで対象となる子供がいたが、現在は家庭の中にいなくなってしまったことを示していると推測される。

### 3. 3 渋民地区

渋民地区は住宅地域であり、移住者がほかよりも多い地区と考えられる。

8割を超える家庭で毎年行われている年中行事(図3)は、「お盆」と「年取り(大晦日)」の2つの行事のみで、今回調べた4地区の中では、その数が最も少

なかった。「不定期」に実施を加えても、「正月」が加わるだけであった。「若水汲み」と「お釈迦様の誕生日」は、「毎年」と「不定期」に実施を合わせても1割以下の家庭でしか行われておらず、もともと「習慣なし」の割合がそれぞれ88%、87%と、9割近い家庭が占めていた。

「毎年」と「不定期」に実施の両方を加えた割合が50%に満たない行事は、「若水汲み」、「七草」、「小正月」、「お釈迦様の誕生日」、「ひな祭り」、「子供の日」、「煤払い」の各行事で、4地区の中で最もその数が多かった。さらに、今回調査対象とした年中行事のほとんどで、もともと「習慣なし」とする回答の割合もほかの地区よりも高かった。

行事の推移については、「数年前に止めた」と「十年

前に止めた」を合わせた割合が10%を超える行事は、「元朝参り」(12%)、「小正月」(13%)、「ひな祭り」(23%)、「子供の日」(30%)、「クリスマス」(16%)であり、特に、「ひな祭り」と「子供の日」は、20%を超える値となっていた。これらの値は、4地区の中では最も大きな値である。この変化は、西根地区と同様、行事の中心となる子供が家庭の中にいなくなってしまうことを示していると考えられる。

### 3. 4 久慈地区

海岸部に位置するこの地区は、漁業が主要な産業で、その従事者が多い。

8割以上の家庭で毎年行われている年中行事(図4)は、「正月」、「小正月」、「お彼岸(春)」、「お盆」、「お彼岸(秋)」、「年取り(大晦日)」だった。「不定期」に実施の割合も加えると、さらに、「クリスマス」、「煤払い」が、8割以上の家庭で行われていることが分かった。一方、「お釈迦様の誕生日」は、「毎年」と「不定期」とを足しても、8%にしかならなかった。現在、半数以下の家庭でしか実施していない行事としては、「若水汲み」、「七草」、「お釈迦様の誕生日」であった。

推移を表す「数年前に止めた」と「十年以上前に止めた」を合わせた割合が10%を超える行事は、「元朝参り」(20%)のみであった。

### 3. 5 川井地区

この地区では、山間部に家々が集落し、古くからの行事が残っている地域と考えられる。

年中行事をまとめた結果(図5)、8割以上の家庭で毎年行われている年中行事は、「正月」、「お彼岸(春)」、「お盆」、「お彼岸(秋)」、「年取り(大晦日)」であった。また、「不定期」に実施も加えると、「小正月」も含まれた。

半数以下の家庭でしか実施していない行事は、「若水汲み」、「七草」、「お釈迦様の誕生日」だった。

推移では、「数年前に止めた」と「十年以上前に止めた」を合わせた割合が10%を超える行事は、「若水汲み」(16%)、「元朝参り」(13%)、「七草」(11%)、「お釈迦様の誕生日」(18%)、「ひな祭り」(19%)、「子供の日」(25%)、「クリスマス」(10%)、「煤払い」(15%)と、その数が4地区の中で最も多かった。特に、これらの中で、「十年以上前に止めた」とする割合が10%を超える行事が、「若水汲み」(11%)、「お釈迦様の誕生日」(14%)、「ひな祭り」(14%)、「子供の日」(18%)、「煤払い」(13%)と、半分以上を占めていた。これは、家族構成の変化などのために、次第に行われる行事が少なくなっていくことが考えられる。

### 3. 6 年中行事の推移について

これまでの結果(図2~5)から、実施(「毎年」+

表1 実施していると回答した割合が50%を超える年中行事

	西根	洪民	久慈	川井
若水汲み				
元朝参り	○	○	○	○
正月	○	○	○	○
七草	○			
小正月	○		○	○
お彼岸(春)	○	○	○	○
お釈迦様の誕生日				
ひな祭り	○		○	○
子供の日			○	○
お盆	○	○	○	○
お彼岸(秋)	○	○	○	○
クリスマス	○	○	○	○
煤払い	○		○	○
年取り(大晦日)	○	○	○	○

表2 中止したとする回答の割合が10%を超えた年中行事

	西根	洪民	久慈	川井
若水汲み	○			○
元朝参り	○	○	○	○
正月				
七草				○
小正月		○		○
お彼岸(春)				
お釈迦様の誕生日	○			○
ひな祭り	○	○		○
子供の日	○	○		○
お盆				
お彼岸(秋)				
クリスマス	○	○		○
煤払い				○
年取り(大晦日)				

「不定期」している家庭が5割を超える年中行事と、過去に実施していたが現在は実施していない行事で割合が10%を超える年中行事を、地区ごとに表1と表2にそれぞれまとめた。また、年中行事で、もともと「習慣がない」とする割合を表3に示した。

「若水汲み」と「お釈迦様の誕生日」は、いずれの地区でも実施している家庭が5割以下であった。もともと「習慣がない」とする家庭(表3)の割合も52~92%と高かった。今回調査した年中行事の中で、5割を超える家庭で実施している行事の数が、洪民地区(7)で最も少なく、ほかの地区では同数(11)だった。「七草」の実施割合が5割を超えている地区は、西

表3 それぞれの年中行事で「習慣がない」と回答した割合 (%)

	西根	渋民	久慈	川井
若水汲み	67	88	71	55
元朝参り	13	32	17	17
正月	6	10	2	1
七草	38	51	71	41
小正月	40	66	4	4
お彼岸(春)	8	19	4	8
お釈迦様の誕生日	77	87	92	52
ひな祭り	33	40	42	24
子供の日	36	46	17	15
お盆	2	8	2	3
お彼岸(秋)	5	20	4	10
クリスマス	13	18	8	23
煤払い	26	46	20	17
年取り(大晦日)	3	7	3	1

根地区のみであった。田畑地区である地域性が関係しているのかもしれない。

もともと「習慣がない」とする回答の割合を行事ごとにまとめた表3において、渋民地区は、多くの行事で最も高い割合を示し、ほかの地区と比べて行事習慣そのものがない家庭が多いことが分かった。久慈地区において、「七草」の「習慣がない」の割合(71%)がほかの地区よりも極めて高いことや、「お釈迦様の誕生日」においても92%と高いことが興味深い。海岸地区で一般的なことなのか、あるいは調査地区の特徴なのかは不明である。

行事の推移を見ると、過去には実施していたが現在は行っていないとした割合(「数年前に止めた」+「十年以上前に止めた」)が10%を超える行事数が川井地区(9)で最も多く、次ぎに西根地区(6)、渋民地区(5)、久慈地区(1)の順であった。久慈地区は、その数が突出して少なく、各家庭で多くの行事が長年に亘り続けられていることが分かった。久慈地区を除く3地区すべてで、「ひな祭り」、「子供の日」、「クリスマス」が、止めてしまった家庭の割合が10%を超える行事に含まれており、家庭の中に行事の対象となる子供がいなくなってしまうことを暗示しているものと思われる。

今回の調査のみから、年中行事を止める切っ掛けとなった要因を分析することはできないが、家族構成の変化、行事を中心に行う者の高齢化や継承、地域行事の変化などが、その要因として考えられる。

#### 4. まとめ

年中行事14項目に関するアンケート調査を県内4地区(西根、渋民、久慈、川井)で実施した。

その結果、現在、「若水汲み」と「お釈迦様の誕生日」はあまり実施されていない行事である一方、「正月」、「お彼岸(春)」、「お盆」、「お彼岸(秋)」、「年取り(大晦日)」は、多くの家庭で実施していることが分かった。行事の推移では、「ひな祭り」、「子供の日」、「クリスマス」をしなくなってしまうとする家庭の割合が高く、家庭の中に子供がいなくなっていることを暗示していると考えられる。年中行事から見た地域の特性も窺い知ることができた。

#### 5. 参考文献

- 1) 盛岡短期大学生活科学研究部：生活調査報告 第1号、昭和34年
- 2) 盛岡短期大学生活科学研究部：生活調査報告 第2号、昭和36年
- 3) 盛岡短期大学生活科学研究部：生活調査報告 第3号、昭和36年
- 4) 盛岡短期大学生活科学研究部：生活調査報告 第4号、昭和38年

#### 謝辞

アンケート調査に御協力いただきました西根地区、渋民地区、久慈地区、そして川井地区の住民の方々に厚く御礼申し上げます。また、調査票の配布や回収などで御支援をいただきました関係行政機関及び地域自治体などの関係者様にも御礼申し上げます。

この研究は、学部プロジェクト研究(2008～2010年度)として実施されました。